

行政視察報告書

参加議員	山本武朝、渡部伸広、軽米智雅子
調査期間	令和7年1月28日（火）～令和7年1月30日（木）
調査先 及び 調査事項	① 神戸市 防災教育について 災害時の給水等の取組について ② 長崎市 学校における平和教育の取組について

視察概要	
■ 調査先①	神戸市
■ 調査事項	防災教育について 災害時の給水等の取組について
〔調査日〕 令和7年1月29日（水）9：30～ 〔調査目的〕 ◇阪神淡路大震災から30年を経て、現在の防災教育の取組と水道事業の防災対策を調査。 〔対応者〕 水道局 配水課 課長 小河広志、係長 小西亮 技術企画課 牛尾亮太、小倉洋平 教育委員会 学校教育課 課長 都築浩司、係長 川崎善弘、佐野暢子 〔調査内容〕 ◇震災30年「ともしびプロジェクト」について、学校園において、防災教育を通じて新たな神戸の歴史を積み重ね続けている思いを「見つめる」・「いかす」・「つなぐ」の視点で活動に取り組んでいることの説明を受ける。 ◇震災の教訓から「地区ごとで水を確保」・「市民と連携した応急給水活動」・「市民の運搬距離を短く」などの対策、水道施設耐震化基本計画の説明を受ける。 〔所見〕 ◇震災の経験をしっかり教訓にして、どちらも大変レベルの高い取組をしている。防災教育や応急給水拠点など青森市でもいくつか生かせるものがあったので取り組んでいきたい。 「人と防災未来センター」の見学は震災の怖さや防災の重要性を再確認することができた。	

視 察 概 要

■ 調査先② 長崎市

■ 調査事項 学校における平和教育の取組について

〔調査日〕

令和7年1月30日（木）9：30～

〔調査目的〕

◇長崎市被爆から80年が経ち、被爆体験者が少なくなっている中でどのように継承しているのか教育現場の取組について調査。

〔対応者〕

長崎市原爆資料館 被爆継承課 課長 田中祐介
教育委員会 教育管理官 徳永達樹、
主任指導主事 飯塚貴史

〔説明内容〕

◇「被爆の継承」と「平和の発信」というこれまでの2つの柱に「平和創造」という新しい柱を設け、他者の意見を尊重しながら自分の言葉で平和を語り行動できる児童の育成を目指している。
平和の心を育てる直接的アプローチと間接的アプローチから平和をつくる人の育成に取り組んでいる。

〔所見〕

◇これまでは被爆者の家族が語り部になっていたが、その人たちも少なくなり現在は語り部を育てる取組もしている。厳正な審査により着実に人材が育っているとのこと。また教員の初任者には必ず平和教育研修を行い、子どもたちに語れるようにしているなど語り部を絶やさない取組に感心した。青森市も青森大空襲を経験しているが、そのことに対する平和教育、語り部の継承など取り組まれているのか。
◇長崎原爆資料館では、このたび、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の企画展示会も行われていて、授賞式のパネルや受賞メダルなども見ることができ、貴重な体験となった。